

学位研究 第5号 平成8年9月 (論文)
〔学位授与機構研究紀要〕

米国における学外学位制度の現状

The Status Quo of the External Degree Systems in the United States

森 利 枝

Rie MORI

米国における学外学位制度の現状

森 利 枝*

はじめに

本稿は、米国の学外学位の制度の実施状況の把握のために実施された調査結果に基づくものである。この調査は、平成6年度の末に学位授与機構の調査研究活動の一環として、館昭教授によって企画され、池マリ助教授の協力の許に実施されたアンケートおよびカタログ調査であり、筆者は平成7年度にこのプロジェクトに参加した。

本稿ではまず学外学位ということばの定義を試みたくて、今回の調査結果を基に米国の学外学位制度の現状を分析を交えつつ概観し、その概要を理解することを目的とする。

I 学外学位の定義

本稿はアメリカの学外学位制度を扱うものであるが、論考を始めるにあたり、まずこの学外学位制度をことばのうえで定義することが必要となろう。ただし、アメリカにおける学外学位 (external degree) の定義については、館論文 (1994) にすでにその制度の出現の経緯と共に紹介がなされている。ここでは過度の重複を避けるために、今回の調査の台帳となったアメリカ大学委員会 (College Board) が発行している大学案内『大学ハンドブック』と、ダフィー (J. P. Duffy) による『大学に行かずに大学学位を取得する方法』の両書にみられる学外学位の定義を参照する。

まず、『大学ハンドブック』には、学外学位プログラムが、「学生が、自立学習、大学授業、実力試験、個人経験によってクレジットを取得し、学位を取得する学習システム」と定義されており、「一般に学外学位大学 (external degree colleges) にはキャンパスや教室設備等はない」(The College Board, 1995, p.30) とも記されている。

この定義のなかで用いられている用語の中では「インディペンデント・スタディ」ということばに若干の掘り下げが必要であろう。もっとも学習というものは畢竟「個人的 (individual) なものだといえる」という指摘の合理性は認められるところだろうが、ここではこの学習の原則ともいえる指摘をふまえた上で、「教育の画一性を打破する」(Romiszowski, 1995, p.2770) 方途としてのインディペンデント・スタディとは何かという問いに対するプラクティカルな答

*学位授与機構審査研究部助手

えの模索を試みたい。

インディペンデント・スタディについて前掲の『大学ハンドブック』の解説を参照すると、「学生が、時間割の定まった講義に出席したりグループ研究を行ったりすることなく、独立して学習することによって大学におけるいくつかのコースを修了することを可能にする措置。一般的に、学生はファカルティ内のアドバイザーや委員会と相談して学習プログラムを計画する。学生はこのアドバイザーや委員会に定期的にレポートを提出し、さらに最終レポートを提出することによって評価を得ることができる」(The College Board, 1995, p.31)とされている。また、インディペンデント・スタディの具体的な形態を国際高等教育事典に参照すると、「合衆国では、通信教育 (correspondence study), 自宅学習, 遠隔教育 (distance study), ラジオ教育, テレビ教育等, 広範で包括的なクラスに属するあらゆる形態の間接的な教育を, 近年インディペンデント・スタディと呼びならわすようになってきている」(Wedemeyer, 1977, p.2114)とされている。

これらの記述からは、インディペンデント・スタディの特徴として、

①固定された教室での講義に出席することが必須とはされない

②固定された時間内での学習が必須とはされない

という、時間と空間の両面において柔軟な学習プログラムであるということが指摘できる。この特徴は換言すれば、インディペンデント・スタディが、学習に時間と空間の規制を設けるレジデンス (residence) の概念から自由である、すなわちノンレジデンシャル (nonresidential) なプログラムであることを指し示すといえよう。

以上のことをふまえて、先述した学外学位の定義に立ち戻ると、学外学位を得るための学習は「自立学習, 大学授業, 実力試験, 個人経験」という、従来のリジッドな学習形態とインディペンデント・スタディのような柔軟な学習形態をとりまぜた、総体としては弾力性に富んだものだといえそうである。

次に、ダフィーによる学生向けの学習ガイド『大学に行かずに大学学位を取得する方法』に見える学外学位の定義を参照しよう。当該書では、それぞれの大学が運営する非伝統的プログラムの名称として用いる術語は必ずしも明確な基準に基づいているわけではないということを目指したうえで、学外学位プログラムに関して次のように述べている。「本書では、大学のプログラムのなかで、『学外学位プログラム』の名に相応するものと、非伝統的ではあるが厳密には学外学位とは呼べないものとの間に独自の境界を設ける。これら2種類のものの違いは、参加者が教室で、あるいは『レジデンスして』過ごすよう求められている時間の総量である(中略)。学校で過ごすよう求められる時間が短期であるか、あるいは働きながら学ぶ者のスケジュールにあわせて調整可能なものであれば、本書はそのプログラムを採録した。」(Duffy, 1994, p.19)

このダフィーの指摘からはふたつのことが読みとれる。ひとつは学外学位制度の基本にはresidencyの概念があり、その短いものを学外学位と呼ぶということである。ダフィーが設定したこの基準が、先に見た大学ハンドブックでも学外学位の特徴のひとつとして認識されているということはさきに検討した。そしてもうひとつは、学外学位を定義することは容易な命題ではない

ということである。この、定義が容易ではないということは、大学ハンドブックにおける学外学位の定義が、必ずしも「学外学位」ということばの意味するところを厳密に描き出しているとは言いがたいということにも見て取れよう。この学外学位制度の定義の困難さは何に起因するのか。

学外学位の定義が困難である理由については、ひとつの可能性として、学外学位制度が、ほんらい非伝統的高等教育システムの一環であり、伝統的な高等教育に対するオルタナティブなシステムのひとつであるということが指摘できるだろう。ここにみられる「非」あるいは「オルタナティブ」という形容詞が示すように、学外学位制度の特色は、「…である」という肯定形の言説ではなく、「…ではない」、「…とは別の」という否定形の集積で語られることになる。「…である」という言説には事象を限定的に切り取って提示することが可能だが、「…ではない」「…とは別の」という言説の指し示す事象は無限の広がりをもつ可能性がある。このことが、「学外学位」のことばの上での厳密な定義を阻害する主たる要因になっているとは考えられないだろうか。

このような状況をふまえ、本調査ではアメリカの学外学位制度の現状を調査することを試みた。

Ⅱ 調査の実施

本調査は平成6年度より実施された。調査の台帳には前述のカレッジボード『大学ハンドブック』（1993年度版）を用いた。調査の方法は、同書に学外学位を授与する大学として記載された170校すべてに対して、質問紙の郵送により、学外学位の授与状況を調べるというものであった。今回の調査対象となったこれら170校はすべて、米国内のいずれかのアクレディテーション団体によって、正規の学位授与機関として認定されたものである。また各大学に対し、学外学位プログラムに関する資料を請求することも同時に行った。なおこの郵送調査は、計画から実施まで、館昭教授を中心にして行われたものである。調査の依頼状は、資料1として稿の末尾に掲げた。

質問紙の回収数は107件（回収率62.9%）、うち有効回答数は74件（有効回答率43.5%）であった。回収総数と有効回答数の差33件の内訳は、学外学位制度なしとの回答を得たものが30件、大学の資料のみが送付されたものが2件、調査の段階で大学が閉鎖されていたものが1件であった。

質問の内容

質問紙の内容は以下に掲げるとおりである。なお原文は資料2に示し、各大学の回答のうち数量的に処理できるものは資料3として一覧に示した。

- ・学外学位の授与を管轄している部局のレベル
大学・学部・その他
- ・学外学位を管轄する部局についての詳細な情報
- ・授与している学位のレベル
博士・修士・学士・準学士・その他の修了証明
- ・レベルごとの学位に付される名称
- ・現在の学外学位プログラムの登録者数
- ・1993年から1994年までの年度の学外学位の取得者数

Ⅲ 学外学位プログラムの名称

先にも述べたとおり、米国における学外学位の実施状況に関する本調査の有効回答数は74件であった。ただし、冒頭で考察したように「学外学位」ということばは必ずしも厳密な定義とともに用いられているとは言い難い。したがって、これら74件の「学外学位」プログラムも、その内容に多様性のあることが推測できる。ここでは個々の質問に対する回答を取り上げる前に、各大学が学外学位の授与のために開設しているプログラムの名称を概観しておきたい。これは、本稿で扱う学外学位プログラムの概容を知る手がかりとするためである。

これらプログラムの名称は、個々のプログラムが設置された目的をある程度反映していると考えられる。したがってこれらの名称それぞれの含意の異同からは、プログラムの内容の異同が推測できよう。

表1は、今回回答の得られた大学の、学士の学位授与プログラムの名称の一覧である。これは質問紙ではなく、各大学から質問紙と併せて送付された資料から作成されたもので、46件のプログラムの名称が確認されている。46件中共通に見られたものは「学外学位プログラム(External Degree Program)」が7件、「成人学位プログラム(Adult Degree Program)」が5件、「継続教育(Continuing Education)」が2件であり、それら以外の32件はすべて異なる名称をもっていた。32件の中にはプログラムの内容を直接指し示すのではない名称も含まれている。ただし、多くのケースで、上記の「学外(external)」、「成人(adult)」、「継続(continuing)」のほか、「遠隔(distance)」、「拡張(extended)」、「自立(independent)」、「学位完成(degree completion)」等、非伝統型のプログラムであることを示すキーワードが見いだせることも指摘できよう。

表1

プログラムの名称	件数
External Degree Program	7
Adult Degree Program	5
Continuing Education	2
Adult Bachelor's Degree Program	1
Alternative and Continuing Education	1
Bachelor of Independent Study Program	1
Bachelor's Degree at a Distance	1
Board of Governors Program	1
Career Directed Program	1
College of Continuing Education	1
College of Professional Studies	1
Degree Completion for Working Adults	1
Distance Education	1
Distance Education Programs	1
Distance Learning	1
Distance Learning Degree Program	1
Extended Degree Program	1
Extended Education	1
Extended Studies	1
External Degree	1
External Degree Completion Program	1
External Student Program	1
External Studies	1
External Studies Division	1
Independent Studies	1
Liberal Studies Program	1
Off-Campus Degree Program	1
Open Program	1
Outreach Program	1
Program for Adult College Education	1
Program for Experienced Learners	1
Saturday Program	1
Servicemembers Degree Program	1
University without Walls	1
Women's External Degree Program	1
計	46

Ⅳ 回答の集計

1 学外学位の授与を管轄している部局のレベル

学外学位の授与を管轄している部局のレベルは、表2のような分布を示した。このように、大半の大学で学外学位は学部(school/college)レベルで運営されていることが見て取れる。なお、合計件数(75件)が有効回答数(74件)を上回るのは、大学と学部の双方を回答してきたケースが1件あったためである。

表2

大 学	2 3	30.7%
学 部	5 0	66.7%
そ の 他	2	2.6%
計	7 5	

2 授与している学位のレベル

博士から修了証明までのレベルごとに、それらの学位ないし証明を学外学位プログラムを通じて授与している大学数をまとめたものが表3である。

表3

博 士	1	1.3%
修 士	3 2	43.2%
学 士	6 3	85.1%
準 学 士	2 6	35.1%
その他の修了証明	2 2	29.7%

表3からも明らかなように、学外学位の中核をなすのは学士の学位プログラム(85.1%)である。次いで修士のプログラム(43.2%)が高率を示している。その反対に博士の学位を授与する大学は1校のみで、オハイオ州のユニオン・インスティテュート(Union Institute)がこれに当たる。この機関が授与しているのはPh. D.である。また、74校の多くが複数のレベルの学位を授与している。一つの大学で授与される学位の組み合わせごとに、授与する大学数をまとめた結果は表4に示した。

表4からは、学士の学位のみを授与する大学(27.0%)と、修士と学士の学位を授与する大学(19.0%)の件数が特徴的に高率を示すことが見て取れる。また、博士の学位のみを授与する大学は、今回の調査では確認されなかった。

表 4

博	士	0	0.0%
博	士 ・ 学 士	1	1.3%
修	士	4	5.4%
修	士 ・ 学 士	14	19.0%
修	士 ・ 学 士 ・ 準 学 士	4	5.4%
修	士 ・ 学 士 ・ 準 学 士 ・ その他	5	6.8%
修	士 ・ 学 士 ・ そ の 他	5	6.8%
学	士	20	27.0%
学	士 ・ 準 学 士	5	6.8%
学	士 ・ 準 学 士 ・ そ の 他	5	6.8%
学	士 ・ そ の 他	4	5.4%
準	学 士	5	6.8%
準	学 士 ・ そ の 他	2	2.7%
計		74	

3 レベルごとの学位に付される名称

各学位あるいは証明に付される名称は、各種証明から先述したユニオン・インスティテュートが授与する Ph. D. まで、きわめて多岐にわたっている。そのため、ここでは網羅的に紹介することは避けるが、学芸学士(BA)、科学学士(BS)、あるいは自由学芸準学士(AA in Liberal Arts)等の伝統的な高等教育プログラムで用いられる名称がここでも多く見られるほかに、自立学習学士(Bachelor of Independent Study)、個人学習準学士(Associate of Individualized Studies)等が散見されることが、学外学位の特徴として注目される。また、修士レベルの学位に付される名称の多くは伝統的なプログラムでも見られるものであり、今回の調査では唯一アンティオク大学(Antioch University)で授与する個人学習学芸修士(Individualized Master of Arts)のみが、非伝統的プログラムの特色を明確に反映した名称として確認されたのみであった。ただしこのアンティオク大学の場合も、大学の資料には「ディプロマには学芸修士(MA)として記載する」ことが明記されている。

4 学外学位プログラムの登録者数

学外学位プログラムに登録している人数を、学位のレベル別にまとめた結果が表 5 である。ここでは各レベルの学位プログラムをもっていると回答した大学を、登録者数を回答したものとしなかったものに分け、レベルごとに 1 校あたりの平均登録者数もあわせて表示した。これによると、登録者の絶対数が多いのは学士のプログラムであり(55,618人)、次いで準学士(23,844人)、博士(1,200人)、その他の修了証明(2,037人)、修士(1,089人)となっている。また 1 校あたりの平均登録者数では準学士のプログラム(1,490.3人)がもっとも多く、次いで博士(1,200人)、学士(1,011.2人)、その他の修了証明(156.7人)、修士(45.4人)の順に減少している。

表 5

	回答／非回答数(校)	登録者数(人)	1校あたり平均(人)
博 士	A	1	1,200
	NA	0	—
修 士	A	24	1,089
	NA	8	—
学 士	A	55	55,618
	NA	8	—
準 学 士	A	16	23,844
	NA	10	—
その他の 修了証明	A	13	2,037
	NA	9	—

5 学外学位の取得者数

学外学位の取得者数を、学位のレベルごとにまとめた結果は表6に示した。ここでも、先に集計した登録者数に見られるのと同様の特徴が見て取れる。すなわち学位取得者の絶対数は学士のプログラムにもっとも多く(10,417人)、次いで準学士(3,662人)、修士(2,559人)、博士(227.0人)、その他の修了証明(581人)の順に少なくなっている。1校あたりの取得者数をもっとも多いのは準学士のプログラム(288.9人)で、次いで博士(227.0人)、学士(186.0人)、修士(111.3人)、その他の修了証明(48.4人)の順に減少している。

また、取得者／登録者のおおよその比率は、博士が約19%、修士が約24%、学士が約19%、準学士が約15%、その他の修了証明が28%となっている。ただしこれらの比率を示す数字は、1年間に登録していた人数に対する修了者数であって、1年間の新規登録者に対する取得者数ではないため、学外学位の「取得率」と考えられるものではない。したがって、これらの数字からは、年間で全登録者数のうちの1.5割から3割程度の取得者が出るということをはっきりと知ることができる。

表 6

	回答／非回答数(校)	取得者数(人)	1校あたり平均(人)
博 士	A	1	227
	NA	0	—
修 士	A	23	2,559
	NA	9	—
学 士	A	56	10,417
	NA	7	—
準 学 士	A	16	3,662
	NA	10	—
その他の 修了証明	A	12	581
	NA	10	—

V 学位取得のための要件

ここまで、質問紙に対する回答をまとめて分析してきた。次に各大学から送付された資料に基づいて、学外学位取得のための要件を扱うことにする。ここでは博士・修士・学士・準学士の学位プログラムに限り、1. 入学要件、2. 卒業要件の二つの要件において分析する。

1 入学要件

学外学位を得るために学外学位プログラムに登録することを、ここでは入学(admission)と呼ぶことにする。高校卒業かそれと同等の学力が証明されること以外に、学外学位の入学要件としては主に以下の3種類の条件が課される場合がある。

- ① 年齢
- ② 既得クレジット・学位
- ③ 職業・職業経験

以下、これら3つの要件に関して現状を概観してゆく。

① 年齢

学部(undergraduate)レベル、すなわち学士と準学士のプログラムには入学できる最低年齢が設定されていることがある。

学士のプログラムで最低年齢を設定しているケースは合計12件確認された。その内訳は次の表7に示すとおりである。

表7

21歳以上	2件
22歳以上	4件
23歳以上	3件
25歳以上	3件
<hr/>	
計	12件

準学士のプログラムで最低年齢を設定しているケースは4件確認された。その内訳は次の表8に示すとおりである。

表8

21歳以上	1件
22歳以上	1件
23歳以上	2件
<hr/>	
計	4件

ここで確認された年齢制限の平均は、学士レベルで22.8歳、準学士レベルで22.3歳と、学士レベルの方が若干高くなっている。これは伝統的プログラムの平均的入学年齢を反映したものであると考えることができるだろう。なお、大学院(graduate)レベルのプログラムで、入学者の年齢に制限を設けているケースは確認されなかった。

② 既得クレジット・学位

修士レベルの学外学位プログラムでは、ほとんどの場合学士ないしそれと同等の学力を有することを入学要件とすることが明記されている。それとは別に、学外学位プログラムに参加する時点で、すでにくらかのクレジットを得ていることが入学の要件となることがある。ここで求められているのはすべて、アクレディテーションを受けた機関で取得したクレジットである。この要件は修士と準学士のプログラムには見られず、学士のプログラムにおいてのみ確認された。

この要件を課しているケースは7件確認された。大学のクレジットの計算方法は、学期のシステムの違い等により、大学によってセメスタークレジット、クォータークレジット等と異なるために、クレジットに関する規定については、資料にも曖昧な記述がいくつか見られるが、既得の12セメスタークレジットを要件とするものと50セメスタークレジットを要件とするものが各1校、60セメスタークレジットを要件とするものが2校、62セメスタークレジットを要件とするものが1校、単に30クレジット、60クレジットの既得を要件とするとしたものが各1校あった。

また既得学位に関しては、既得クレジットの場合とは反対に、既得の学位がないことを入学要件としているケースが2件見られた。いずれも学士レベルのプログラムで、そのうちの1件、オハイオ大学メインキャンパス (Ohio University Main Campus) では「伝統的4年制学位をもっていないこと」を要件に掲げ、もう1件のアラバマ大学 (University of Alabama) では「学部レベルの学位をもっていないこと」を要件にしている。

③ 職業・職業経験

学部レベルのプログラムには、職業経験に関する要件が課されていることもある。本調査では入学要件として有職者 (worker) であることを課したケース (カンザス市カンザスコミュニティカレッジ (Kansas City Kansas Community College) ・セント・メリーズ・カリフォルニア大学 (Saint Mary's College of California)) が2件、2年以上のフルタイムでの職業経験を要件としたケース (南ウェゼリアン大学 (Southern Wesleyan College)) が1件、7年以上の職業経験を要件としたケース (エリザベスタウン大学 (Elizabethtown College)) が1件確認された。

これら以外に、入学者の職業を限定しているケースが2件確認された。グレースランド大学 (Graceland College) の学外学位プログラム (Outreach Program) は、正看護婦 (registered nurse) を対象としたプログラムであり、科学学士 (看護学) と学芸学士 (自由学芸) が授与されている。また、マーサー州コミュニティカレッジ (Mercer County Community College) の軍人学位プログラム (Servicemembers Degree Program) は、現役と予備役の軍人のためのプログラムで、ここでは学芸準学士、科学準学士、準学士 (応用化学) の各学位を得ることができる。

またこれは職業ではないが、「女性であること」が要件になるケースが1件見いだされた。セント・メリー・オブ・ザ・ウッド大学 (Saint Mary-of-the-Woods College) は女子大学であ

り、女性のための学外学位プログラム（Women's External Degree Program）を通じて学芸修士（牧会神学）、学芸学士、科学学士、学士（ソーシャルワーク）、学芸準学士、科学準学士の各学位を授与している。

また性別に関しては、メアリー・ボールドウィン大学（Mary Baldwin College）の成人学位プログラムと、ステファーズ大学（Stephens College）の学外学位プログラムにも注目しておくべきであろう。これらの両大学は、おのこの大学の伝統的セクターは女子大学である。しかし、学外学位プログラムには男性・女性双方の入学を認めている。ここにも「非伝統的」プログラムの特徴が見いだせる。

2 卒業要件

学外学位のプログラムにおいても多くの場合、定められた課程を修了して学位を授与されることを卒業（graduation）と呼び、そのための要件は卒業要件と呼ばれている。学外学位プログラムに特徴的な卒業要件として共通するのは主に以下の3種類の条件である。

- ① レジデンス
- ② トランスファー・クレジット
- ③ 当該大学からのクレジット

ここでは入学要件と同様にこれらの3条件についても個別に概観する。

① レジデンス

本稿の冒頭で引用したダフィーによる学外学位の定義は、レジデンスの時間、すなわち定められた時間に定められた場所で学習する時間が「短期であるかあるいは働きながら学ぶ者のスケジュールにあわせて調整可能なもの」であった。

本調査の結果、このレジデンスの実態は、時間の点でも空間の点でも様々であることが明らかになった。まず空間に関しては、学習のための定められた場所は多くの場合大学のキャンパスであるが、大学が関連する地域の学習センターがこれに代わるようなケースも散見される。また時間に関しては、定められた学習の時間はさまざまであるが、これらを単純に比較することは難しい。これは、要求されるレジデンスが日単位、週単位等の時間ベースで規定されているケースや、出席すべき科目数、ミーティング数によって規定されているケース、当該大学で取得すべきクレジット数によって規定されているケース等多様であるためである。たとえば日単位ではもっとも短いものが全プログラムを通して1日と規定されているケースから、もっとも長く9日と規定されているケースまでの広がりを見せている、またプログラム中3回のミーティングへの出席が義務づけられているケース、2日のレジデンスと1回のミーティング、という規定もある。クレジット数ではたとえば学士プログラムでは12クレジットから32クレジットまで、レジデンスでの取得が求められている。

このようにレジデンスを規定する要件は大学によってきわめて多様であり、ここから合理的な傾向を導き出すことは今の段階では不可能である。したがってここでは、要求されるレジデンスの長さは多様であり、レジデンスが全く要求されないケースから、毎週末の通学が要求さ

れるケースまで確認できたことを記すにとどめるべきであろう。

② トランスファー・クレジット

学外学位のプログラムでは、当該大学以外の大学で得たクレジットを学位取得のためのクレジットとして算入する事が認められている場合が多い。ただし、入学要件の中で検討したように、一定数の既得クレジットが入学の条件となるのとは反対に、この場合は他大学から持ち込むクレジットの数に上限が設けられている場合がある。

今回の調査からは、トランスファー・クレジットの数の上限は、修士プログラムにおいてもっとも厳しいことが明らかになった。修士プログラムでのトランスファー・クレジットを認めていることが確認されたのは32大学中4大学で、6クレジットから13クレジットまでのトランスファーが認められている。

反対に、トランスファーの幅が広く認められているのは学士プログラムに見られる傾向である。今回確認できたなかで、学士プログラムのクレジットのトランスファーに関してもっとも厳しい制限を付していた南東バイブル大学 (Southeastern Bible College) は、30クレジットのトランスファーを認めている。トランスファーに上限を設けない大学も数校確認された。

ただし、多くの場合クレジットの質は問われており、ほとんどのプログラムが評価C以上のクレジットのみを算入可とすることを明記している。また異なるレベルの機関からのトランスファーには、独自の制限を設けているケースもある。たとえば南コロラド大学 (University of Southern Colorado) 等では、4年制大学からのトランスファーは96クレジットに限り、2年制大学からのトランスファーは64クレジットに限るというような制限を設けている。またワシントン州のシティ大学 (City University) では、4年制大学からのトランスファーは135クレジットに限り、2年制大学からのトランスファーは90クレジットに限り、また職業学校等で得たクレジットは30クレジットをもってシティ大学の1クレジットとするといった独自の措置を採っている。

③ 当該大学からのクレジット

学外学位プログラムにおいても、当該大学からのクレジットの取得が卒業要件とされていることがある。ここでいう当該大学からのクレジットの取得とは、a)当該大学のキャンパスでのコース履修によるクレジットの取得、b)当該大学が主催・共催している学習プログラムの履修によるクレジットの取得、c)当該大学の教員の指導・評価によるクレジットの取得の3種類の方途を含む。

今回の調査では、この要件を課しているケースが修士プログラムで1件、学士プログラムで11件、準学士プログラムで4件確認された。修士課程にこの要件を課しているのはスキドモア大学 (Skidmore College) で、6クレジットの取得が求められている。また準学士プログラムでは12クレジット、15クレジット、25クレジットがそれぞれ1校で要件とされ、9コースの履修を要件としているものが1校確認された。なお学士プログラムにおいて、当該大学からの取得が要求されるクレジット数については表9に示した。

この、当該大学からのクレジットに関しては、その取得を要件として課さないことを明記し

表 9

当該大学からのクレジット	設置数(校)
15 クレジット	1
30 クレジット	3
32 クレジット	4
45 クレジット	1
48 クレジット	1
9 コース	1

ている大学もある。先に見たような、トランスファー・クレジットに上限を設定していない諸大学がこれに当たる。そのなかでもチャーター・オーク州立大学、リージェント大学、トマス・エジソン大学の各大学は独自の教育プログラムを持たず、他大学で取得された単位をもとに学位を授与する純粋な評価機関として特筆に値しよう。

おわりに

以上、米国における学外学位制度の現状を、質問紙の分析と取得要件の分析から概観してきた。これまでみてきたように、この制度の内容は実に多様であるが、本論を閉じる前に、三つの点に言及しておきたい。

まずひとつめは、学外学位に対する社会的評価の問題である。多くの大学の資料が、学外学位は他の伝統的プログラムによって取得された学位と同等であり、過去の取得者は職場等で、伝統的学位を持つ者と同等に扱われていると記している。しかしこのような記述から実態はわかり知ることはできない。

学位の名称を検討した際に紹介したように、アンティオーク大学で個人学習学芸修士を取得すると学芸修士(MA)として記載されたディプロマを得ることになる。また他の学部レベルの学位プログラムでも、ディプロマには「学外」学位であることは記さないことを銘記しているケースが見受けられた。アクレディテーションを受けた正規の学位授与機関が授与した学位ならば、取得形態の如何によらずその質は一定のレベルを保つことが保証されているというのが学位制度の建前であるが、ここで「個人学習」や「学外プログラム」などの非伝統性を表すことばが避けられるのはなぜだろうか。ここには、学外学位の社会的信用に関する問題が見いだせそうである。ただし、本稿では問題点を指摘するにとどめざるを得ない。

ふたつめは、トランスファー・クレジットに関する問題である。本稿中でも触れたように、多くの学外学位プログラムにおいて、当該プログラムへの入学以前に他大学等で取得したクレジット数を当該プログラムの修了要件として必要とされるクレジット数に算入する、トランスファー・クレジットの制度が探られているが、このときトランスファーするクレジット数には上限のある場合と下限のある場合とがあった。すなわち既得クレジットのうち一定数までのト

ランスファーを認める制度と、一定数以上のクレジットを既得している者に限り入学を許可する制度という正反対の制度があることが確認されたのである。ここには、学外学位プログラム自体の性格のちがいがあらわれているということができよう。すなわち前者の制度には、学外学位プログラム参加者も当該大学のカリキュラムに沿って学習をすべきであるという考え方が指摘でき、また後者の制度は、それまでの学習の成果を学位に結実させるという学位完成の思想に支えられたものであるということが指摘できるのである。

もうひとつ、今回の調査の対象となったすべての学外学位プログラムに共通して見られる特徴の一つを指摘しておきたい。それは、「入学」の手続きがあるということである。学位の取得を目指す者は、個々のプログラムに対して入学の手続きを行う。そののち学生・学習者・参加者と多様な呼称を得るが、いずれにせよプログラムに登録された者として学位の取得に向けて学習を行う。仮に必要とされるクレジットをすべて他大学からトランスファーして、当該大学で単位を得るために学習することがない場合でも、クレジットのトランスファーを行う前に入学の手続きを経ていることは、他のケースと同様である。

この入学の手続きにより、プログラム登録者は学生の身分を得ており、多くの場合奨学金等、学習のための資金援助を受けることも可能であるとされている。もっとも学外学位プログラムの学生はその多くが職業をもっており、したがって年収が高くなるため奨学金の資格規定にそわなくなるという点も見落とせない。したがって実際には、少数の学生が奨学金を得ていることが推察できる。

これら三点のうち、最後に挙げた、学生としての身分の有無の問題は、米国の学外学位システムと、我が国の学位授与機構が学校教育法第68条の2第3項の一にもとづき、短大もしくは高専の卒業者等で、大学における一定の単位を修得した者に学士の学位を授与するシステムを比較したうえでの大きな相違点であるといえよう。学位授与機構のシステムも学外学位の授与システムのひとつであるが、学位授与機構のシステムでは、学位を得ようとする者は学位を得るために、まず学位授与機構が求めている学習をおこない、そののちに学位授与機構に対して学位を「申請」し「審査」を受ける。学位授与機関への登録と学習の順序は、日米のシステムでは逆になっていることが見て取れる。したがって学位を得るための学習の期間、それぞれの学位授与機関じたいが学生としての身分を保証するか否かの違いが生じる結果となる。

ここに挙げた他に、米国の学外学位プログラムで要求されるレジデンスの詳細な実態など、本稿のなかでは明らかにできなかった点もある。この残された問題点に関しては次稿に俟たたい。

参 考 文 献

Duffy, J. P., *How to earn a college Degree without Going to College*, John Wiley & Sons Inc., 1994

Romiszowski, A. Individual Techniques for Teaching and Learning, in Husén, T., Postlethwaite, T. N. (ed.), *The International Encyclopedia of Education*, 2nd ed., Pergamon, 1995, pp. 2770-2773

The College Board, *College Handbook*, 1995

Throson, M. K., *Campus-Free College Degrees*, Adams Media Corporation, 1996

Wedemeyer, C. A., Independent Study, in Knowles et. al.(ed.) *The International Encyclopedia of Higher Education*, Jossy-Bass, 1977, pp. 2114-2132

館 昭「アメリカにおける学外学位課程の展開状況」、『学位研究』第2号, 1994年, 1頁-16頁

資料1 依頼状

NATIONAL INSTITUTION FOR ACADEMIC DEGREES

4259 Nagatsuta, Midori-ku, Yokohama 226, Japan

Phone: 045-922-6441
F a x: 045-923-0258

March 13, 1995

Dr. [REDACTED]
President
[REDACTED] University

Dear Dr. [REDACTED]

I am a professor of the National Institution for Academic Degrees. The Institution was established in 1991, and its task is to award higher education degrees based on the idea of credit accumulation and transfer and to do comparative research in higher education systems between various countries. As to more detailed information on the Institution please refer to the enclosed copy of its brochure.

The institution has recently launched a research project on external degrees awarded by the US. universities, and I am the head of the project team. As a preliminary work we are now looking into general conditions of awarding external degrees in leading universities. We are planning to deal with your university as part of our case study. I have found in the *Index of Majors and Graduate degrees 1993* that your university offers external degree programs.

I wonder if you would kindly send a copy of a bulletin, catalogues, or any other related document on external degree programs offered by your university to me by air mail. Also, I should be very grateful if you could answer the questionnaire enclosed and send it back to me. For the success of our research project we need to obtain up-to-dated information on requirements of taking the degrees and programs for them. However, It is rather difficult to find useful materials to obtain such information in our country.

I will reimburse any cost incurred. Please find enclosed a self-addressed envelop and International Reply Coupons towards mailing cost.

Thank you for your attention.

Yours Sincerely,



Akira TACHI
Professor
National Institution for Academic Degree

QUESTIONNAIRE

Name of your institution _____

1. Which level of institution is in charge of administrative work regarding external degree programs at your university? (Please tick off an appropriate level.)

- a. University level
- b. School/ college level
- c. Others

2. If you ticked off c in the above question, please give its details.

3. Which section of the level of institution, which you tick off in 1, is specifically in charge of matters of external degree programmes?

4. Please give the details of the external degrees to be awarded by your university on the following points:

a. Level of the degrees:

(Please tick off an appropriate level, or levels.)

- (i) Doctoral level
- (ii) Master's level
- (iii) Bachelor's level
- (iv) Associate's level
- (v) Other level (*e.g.* qualifications, certificates, diplomas, *etc.*)

b. Official title of the degrees:

(Please enumerate all of them.)

(i) Doctoral level.....

.....
.....
.....
.....

(ii) Master's level.....

.....
.....
.....
.....

(iii) Bachelor's level.....

.....
.....
.....
.....

(iv) Associate's level.....

.....
.....
.....
.....

(v) Other level (e.g. qualifications, certificates, diplomas, etc.).....

.....
.....
.....
.....

c. Number of students currently pursuing the degrees:

- (i) Doctoral level.....
- (ii) Master's level.....
- (iii) Bachelor's level.....
- (iv) Associate's level.....
- (v) Other levels (*e.g.* qualifications, certificates, diplomas, *etc.*).....
.....

**d. Number of students who obtained the degrees in the academic year of
1993-1994:**

- (i) Doctoral level.....
- (ii) Master's level.....
- (iii) Bachelor's level.....
- (iv) Associate's level.....
- (v) Other levels (*e.g.* qualifications, certificates, diplomas, *etc.*)...
.....

5. Please give a name of the person with whom I should contact at your university in order to obtain more detailed information upon the external degree programs offered by your university.

Thank you for your co-operation.

資料3 米国の学外学位授与状況

INST	Doctoral		Master's		Bachelor's		Associate		Others		ADM		
	ERMT	DGR	ERMT	DGR	ERMT	DGR	ERMT	DGR	ERMT	DGR	U	S/C	O
Antioch Univ.			○	275	45								○
Bellevue College			○	100	66		500	298					○
Bemidji State Univ.						○	870	83	9	0			○
Berea College			○	—	—	○	—	—	—	—			○
Brigham Young Univ.						○	449	15					○
Caldwell College						○	450	80					○
California State Polytechnic Univ.: Pomona			○	200	20								○
California State Univ.: Chico			○	150	22	○	450	76					○
California State Univ.: Dominguez Hills			○	500	77								○
Charter Oak State College						○	1,119	200	80	25			○
City Univ.			○	—	—	○	—	—	—	—			○
Covenant College						○	160	100					○
Eastern Oregon State College						○	—	—					○
Eckerd College						○	60	6					○
Elizabethtown College						○	53	15					○
Empire State College			○	374	52	○	4,224	1,354	1,592	578			○
Fort Valley State College			○	500	75	○	2,000	300					○
Eramingham State College						○	144	22					○
Governors State Univ.			○	25	3	○	343	165					○
Graceland College			○	—	—	○	3,000	141					○
Hesser College									—	—	○		○
Indiana Institute of Technology						○	420	100	210	50			○
Indiana Univ. at Bloomington						○	—	547	—	272	○	11	○
Judson College						○	50	13					○
Kansas City Kansas Community College									○	400	63		○
Kansas State Univ.						○	133	—					○
Lesley College			○	—	940	○	—	137	—	—	○	600	○
Linfield College						○	950	180			○	40	○
Mary Baldwin College						○	1,015	101					○
Marywood College						○	150	10			○	0	○

INST	Doctoral		Master's		Bachelor's		Associate		Others		ADM				
	ERMT	DGR	ERMT	DGR	ERMT	DGR	ERMT	DGR	ERMT	DGR	ERMT	DGR	U	S/C	O
Mercer County Community College															
Murray State Univ.					80	14									
Northern Illinois Univ.			2,000	300	50	20									
Norwich Univ. Vermont College			489	217	512	145									
Oakland City College			52	0	118	59	59	12							
Ohio Univ. Main Campus					750	15	420	17	10	0					
Oklahoma City Univ.			200	100	100	60			300	100					
Oral Roberts Univ.					240	3									
Pensacola Junior College*							pln	pln							
Prescott College			80	30	425	125									
Queen of the Holy Rosary College							7	5							
Regents College					8,742	2,636	10,465	1,807							
Roger Williams Univ.					650	85	75	22	18	14					
Saint Joseph's College			1,400	42	3,800	287	90								
Saint Mary's College of California			115	45	600	215			145	100					
Saint Mary-of-the-Woods College			70	12	850	65	30	6	40	4					
Silver Lake College			121	20	257	83									
Skagit Valley College							3	5							
Skidmore College			40	--	230	41									
Sonoma State Univ.			47	12											
Southeastern Bible College					15	2	25	2	200	251					
Southeastern Univ.															
Southern Wesleyan College			42	15	666	168			212						
Southwestern Adventist College					200	24									
Spring Arbor College					849	340									
Stephens College					224	22									
Thomas A. Edison State College			pln	pln	8,118	718	2,629	223			17	2			
Union Institute					500	170									
Univ. of Alabama					587	78									
Univ. of Hawaii: Kapoalan Community College							7,750	575							

INST	Doctoral		Master's		Bachelor's		Associate		Others		ADM							
	ERMT	DGR	ERMT	DGR	ERMT	DGR	ERMT	DGR	ERMT	DGR	U	S/C	O					
Univ. of Iowa					410	40					○							
Univ. of Maryland, Univ. College					2,849	10					○		○					
Univ. of Massachusetts at Amherst			○	106	60	15					○							
Univ. of Northern Colorado			○	371	68	0					○							
Univ. of Northern Iowa					120	8							○					
Univ. of San Francisco			○	430	837	459							○					
University of Southern Colorado					---	---					○							
Univ. of South Florida			○	---	130	22							○					
Univ. of Wisconsin-Platteville					410	10							○					
Univ. of Wisconsin-River Falls					90	2							○					
Utah State Univ.			○	3,205	4,408	210					○	400	10					
West Georgia College			○	---	---	---							○					
West Liberty State College					300	62							○					
Western Illinois Univ.					833	261							○					
Total	1	1,200	227	32	10,892	2,559	63	55,618	10,417	26	23,844	3,662	22	2,037	581	23	50	2

Abbreviations

INST; 大学名
ERMT; 入学者数
DGR; 学位取得者数
ADM; 学外学位管理母体
U; 大学
S/C; 学部
O; その他
pln; 学外学位プログラム計画中
一; 無回答

{ABSTRACT}

The Status Quo of the External Degree System in the United States

Rie Mori*

This article is a summary report for the study of the external degree system in the United States. This study is a portion of the mission of National Institution for Academic Degrees to research systems of academic degrees in various countries.

The aim of this study is to grasp the feature and picture out the principal of the external degree system in the United States. Consequently, it is expected to contribute to the further development of the degree award system of NIAD by considering the causing element of prosperity of the system in the United States.

The Inquiry was conducted by analyzing the questionnaires and other materials on each systems of external degree. Those sheets of questionnaire were send out to 170 colleges and universities which were described as external degree awarding institutions in the College Handbook by the College Board. Out of 170 institutions, 74 made significant replies. Through the external degree systems, all kinds of degrees as doctoral, master's, bachelor's, associate degrees and other certifications are given. Above all, the program for bachelor's degrees seems to be playing the main role for the system. Out of 74 institutions, 63 have external programs for bachelor's degree. It is a particularly high rate as compared with the facts that 32 institutions are observed to award master's degrees, 26 to associate and one to doctoral degrees.

The systems vary, and so it is hard to picture the outline of the whole dynamics of external degree awarding system. However, one feature to be said in the comparison with the similar system of NIAD, Japan, is the system of admission. In the United States, all the degree candidates make admission before the beginning of the program to pursue the degrees. In NIAD system, they do not have the procedure of admission. Thanks to the system of admission, most external degree programs guarantee the status of student to degree candidates. So, they can get financial aid to process their study to earn degrees. So far, it does not occur in the case of the NIAD degree awarding system, which can be considered a major difference.

Through this study, two topics can be pointed as unsolved problems. One is the topic about residency. In external degree systems, it is said that the amount of

* Research Fellow, National Institution for Academic Degrees

residency to be required to earn a degree is the factor to distinguish external degree programs from other traditional degree programs. Although, it should be said that this factor is not clear, which is mainly due to the variety of units to decide the length of residency.

Another one is the topic of evaluation. The evaluation of external degrees in the society is not covered in this research. Those can remain as subjects to be studied in subsequent researches.